

経営比較分析表（平成29年度決算）

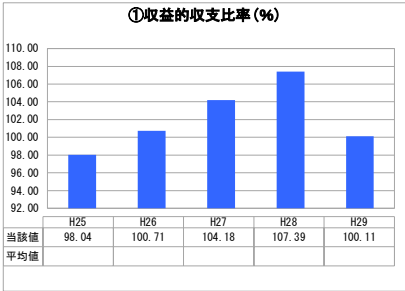
福島県 平田村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	32.55	100.01	4,320

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
6,294	93.42	67.37
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,024	2.17	932.72

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



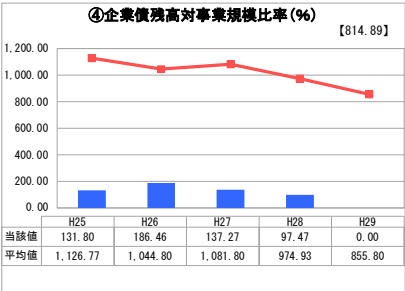
「単年度の収支」



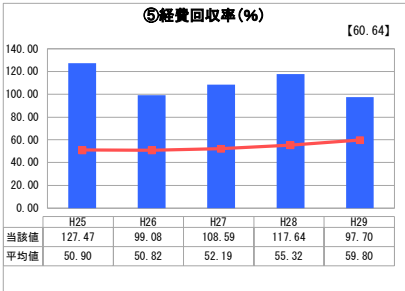
「累積欠損」



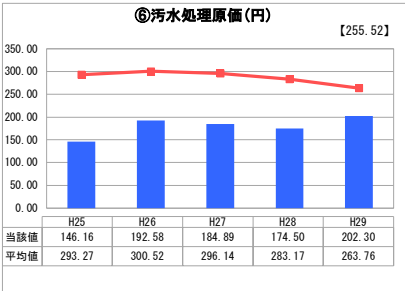
「支払能力」



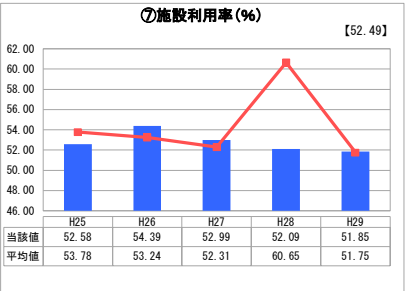
「債務残高」



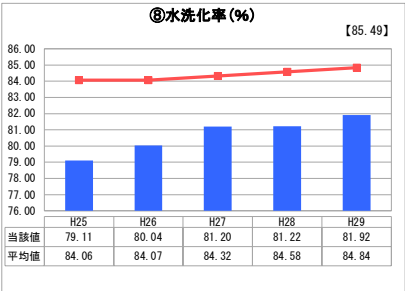
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

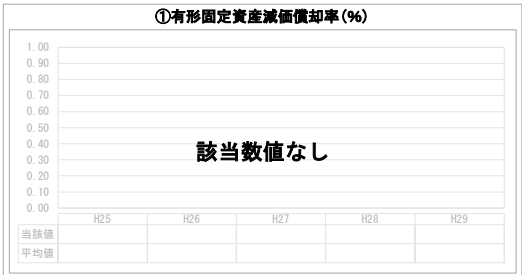


「施設の効率性」

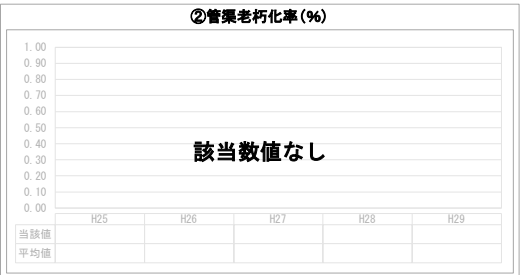


「使用料対象の捕捉」

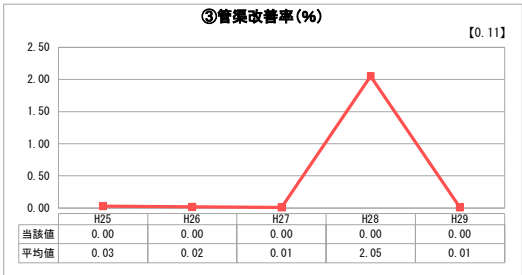
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 収益的収支比率について、100%を上回ってはいるが、前年度比で7.28%減となり、また一般会計繰入金に依存する状況が続いているため、料金改定など料金収入での財源の確保に取り組む必要がある。
- 企業債残高対事業規模比率について、現在投資事業を行っていないため年々減少しているが、供用開始後20年を経過する施設があるため、今後施設の長寿命化、機能強化を進めていく必要があるため、多額の支出が見込まれる。
- 経費回収率について、100%を若干下回っており、また今後の施設更新等の投資を考えると、更なる財源確保が必要となるため、料金改定などを検討する必要がある。
- 汚水処理原価について、類似団体平均値より低く、適正であると思われる。今後の更に効率的な汚水処理を実施するにあたって、有収水量、収入料金増加のために接続率の向上を図る。
- 施設利用率について、人口の減少、処理数量の減少から利用率も若干低下しているが、今後未加入世帯の接続を考えると適正と思われる。
- 水洗化率について、年々増加傾向にあるが、更なる向上のため、接続加入促進を図る。

2. 老朽化の状況について

管渠改善率について、現在は管渠の更新をしていないが、供用開始20年を経過する施設もあるため、最適整備構想を策定し、計画的な更新を行っていく必要がある。

全体総括

財源が一般会計の繰入金に依存する傾向にあるため、経営の改善、料金体系の見直し等の対策が必要と思われる。また、安定した収入料金の確保のために接続加入促進を図っていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。